



平成31年1月期 第3四半期決算短信(日本基準)(連結)

平成30年12月7日

上場会社名 ポールトゥウィン・ピットクルーホールディングス株式会社
 コード番号 3657 URL <https://www.poletowin-pitcrew-holdings.co.jp>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 橘 鉄平
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役管理部部長 (氏名) 山内 城治

TEL 03-5909-7911

四半期報告書提出予定日 平成30年12月13日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年1月期第3四半期の連結業績(平成30年2月1日～平成30年10月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年1月期第3四半期	18,072	7.6	2,405	18.7	2,344	12.7	1,430	20.3
30年1月期第3四半期	16,790	19.6	2,027	18.5	2,080	42.0	1,189	53.6

(注) 包括利益 31年1月期第3四半期 1,359百万円 (7.5%) 30年1月期第3四半期 1,264百万円 (%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年1月期第3四半期	78.49	78.36
30年1月期第3四半期	65.66	65.58

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年1月期第3四半期	15,469	12,409	80.2
30年1月期	12,291	9,053	73.7

(参考) 自己資本 31年1月期第3四半期 12,409百万円 30年1月期 9,053百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年1月期		0.00		19.00	19.00
31年1月期		0.00			
31年1月期(予想)				10.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

平成31年1月1日を効力発生日として、普通株式1株につき2株の割合で株式分割を実施する予定です。
 平成31年1月期(予想)の1株当たりの年間配当金は、当該株式分割を反映させております。

3. 平成31年1月期の連結業績予想(平成30年2月1日～平成31年1月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	25,108	12.8	2,612	16.1	2,624	11.6	1,614	46.8	42.35

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

平成31年1月期の連結業績予想の1株当たりの当期純利益は、平成31年1月1日付で普通株式1株を2株に分割する予定である影響を反映させております。

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 有
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年1月期3Q	19,060,000 株	30年1月期	19,058,400 株
期末自己株式数	31年1月期3Q	136,767 株	30年1月期	1,136,694 株
期中平均株式数(四半期累計)	31年1月期3Q	18,227,172 株	30年1月期3Q	18,109,325 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、四半期決算短信(添付資料)3ページ「連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

(四半期決算補足説明資料の入手方法)

四半期決算補足説明資料はTDnetで同日開示しております。

(株式分割について)

当社は、平成30年11月20日開催の取締役会において、平成31年1月1日を効力発生日として、普通株式1株を2株に株式分割することを決議いたしました。ただし、上記平成31年1月期第3四半期の連結業績における1株当たり情報には、当該株式分割の影響を反映させておりません。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第 3 四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第 3 四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)	8
(セグメント情報等)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第 3 四半期連結累計期間における我が国経済は、雇用・所得環境の改善が続く中で、各種政策の効果もあって緩やかな回復が続くことが期待されておりますが、通商問題の動向が世界経済に与える影響や海外経済の不確実性、金融資本市場の変動の影響に留意する必要があります。また、相次いでいる自然災害の経済に与える影響に十分留意する必要があります。

このような経済状況のもと、当社グループの主要事業であるデバッグ・検証事業の関連市場においては、スマートフォンやタブレット端末の普及を背景に、グローバルにソーシャルゲーム市場が拡大しており、多言語対応を前提としたデバッグ、ローカライズ（翻訳）やカスタマーサポートの需要も拡大しております。家庭用ゲーム市場においても、プレイステーション 4、ニンテンドースイッチの販売が好調に推移しております。

一方、ネットサポート事業の関連市場においては、ネットショッピング、フリマアプリ（フリーマーケットアプリ）や映像・電子書籍等の E コマース（電子商取引）が広がりを見せております。それに伴い、出品物チェック、薬機法や景品表示法等に基づく広告審査、権利侵害調査やエンドユーザーからのお問い合わせ対応等の需要が拡大しております。また、最近子どもたちのインターネット利用に関するトラブル対応やその抑止のため、各自治体の教育委員会や私立学校が、ネットトラブル相談窓口の開設や学校裏サイトのモニタリング、生徒及びその保護者を対象にしたネットリテラシー教育に力を入れております。

当社グループにおいては、顧客企業の事業多角化や海外展開、業務プロセスの高度化や複雑化に伴い発生する業務のアウトソーシング事業者として、「人」によるチェック、テスト、モニタリングや審査等のサービスを提供しております。市場において新たなサービスが創出されることにより、デバッグ・検証事業及びネットサポート事業ともにビジネスチャンスにつながっております。最近では、シェアリングエコノミー、スマートスピーカーやフィンテック市場等に対して、各種サービスの提供を開始しております。当第 3 四半期連結累計期間においては、今後の受注増加を見据え、ポルトゥウィン株式会社では 10 月に四条スタジオ（京都府）を開設、ピットクルー株式会社では 5 月に北九州サービスセンターを増床いたしました。顧客企業に対するサービス力の向上及び経営効率化を目的として、2 月にピットクルー株式会社、ピットクルー・コアオプス株式会社及びピットクルー・クロスラボ株式会社の 3 社による組織再編を行いました。また、サーバー監視のサービス範囲を拡大するために 3 月に株式会社サイタスマネジメントを連結子会社とし、8 月に同社をピットクルー株式会社へ吸収合併いたしました。9 月には日本国内の顧客から受注した「モニタリング」、「カスタマーサポート」及び「ソフトウェア品質検証」等の業務のオフショア展開を目的として、ピットクルー株式会社、株式会社クアーズ及び Pole To Win International Limited の 3 社共同出資により、POLE TO WIN VIET NAM JOINT STOCK COMPANY を設立いたしました。国内拠点と海外 10 カ国 18 拠点の連携により、デバッグ、ローカライズ、モニタリング、カスタマーサポート等の「ワンストップ・フルサービス」の提供をグローバルで推進いたしました。

この結果、当第 3 四半期連結累計期間の売上高は 18,072,461 千円（前年同期比 7.6% 増）、営業利益は 2,405,627 千円（同 18.7% 増）、経常利益は 2,344,498 千円（同 12.7% 増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は 1,430,690 千円（同 20.3% 増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

① デバッグ・検証事業

当事業におきましては、9 カ国 17 拠点体制による海外と国内グループ会社の連携を図ることで、国内外ゲームソフトメーカーのグローバル展開サポートに努め、デバッグ、ローカライズ、カスタマーサポート（海外）等のゲームソフトメーカー向けアウトソーシングサービスが拡大いたしました。アミューズメント機器向けアウトソーシングサービスの受注減少がありましたが、国内外にてソーシャルゲームのデバッグ、ローカライズやカスタマーサポート（海外）が増加いたしました。また、海外グループ会社では、ゲーム以外の市場においても、ローカライズや音声収録が増加しております。この結果、デバッグ・検証事業の売上高は 14,041,896 千円（前年同期比 2.3% 増）、営業利益は 2,445,367 千円（同 22.9% 増）となりました。

② ネットサポート事業

当事業におきましては、E コマースサイトにおける出品物チェック業務、薬機法や景品表示法等に基づく広告審査業務、代金や商品到着等に関する電話・メール・チャットによるカスタマーサポート（国内）等のアウトソーシングサービスの受注が増加いたしました。また、デバッグ・検証事業との連携を強化し、ゲーム市場向けのカスタマーサポートが増加いたしました。様々なサービスに AI が活用される中、AI の品質を向上させるためのデータクレンジング（注 1）、アノテーション（注 2）、データ認識評価といった新たなサポートサービスを開始しております。この結果、ネットサポート事業の売上高は 3,795,018 千円（前年同期比 40.5% 増）、営業利益は 164,749 千円（同 42.5% 増）となりました。

(注1) データクレンジング

データの中から、誤記等を探し出し、修正等を行い、データの品質を高めること

(注2) アノテーション

あるデータに対して付加情報や注釈（タグ、メタデータ）を付与すること

③ 医療関連事業

アイメイド株式会社において、介護士、介護福祉士等の医療関連人材紹介サービスや教育サービスを提供しております。当事業の一つとして、外国人技能実習制度利用者に対する教育サービスを行っておりましたが、関係国における法整備、許認可が遅れていることから、当該サービスから撤退いたしました。今後は、過去に医療機関へ紹介した人材のアフターフォロー業務のみを行うことといたしました。この結果、医療関連事業の売上高は132,480千円（前年同期比52.6%減）、営業損失は245,214千円（前年同期は121,096千円の損失）となり、特別損失として事業撤退損77,370千円を計上しました。

④ その他

Palabra株式会社において、今後の映像バリアフリー化時代を見据え、テレビ番組や映画のバリアフリー字幕や音声ガイド制作のサービスを提供しております。当事業の売上高は103,065千円（前年同期比16.8%増）、営業利益は12,269千円（同141.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

(資産の部)

流動資産は、前連結会計年度末に比べて3,162,188千円（33.6%）増加し、12,560,802千円となりました。これは、主に現金及び預金が2,662,613千円、受取手形及び売掛金が580,419千円増加しましたが、未収入金等（その他）が143,748千円減少したこと等によります。

固定資産は、前連結会計年度末に比べて15,016千円（0.5%）増加し、2,908,369千円となりました。これは、主に敷金及び保証金が21,226千円、繰延税金資産が114,519千円増加しましたが、のれんが73,937千円、無形資産が39,115千円減少したこと等によります。

この結果、総資産は、前連結会計年度末に比べて3,177,204千円（25.8%）増加し、15,469,172千円となりました。

(負債の部)

流動負債は、前連結会計年度末に比べて176,553千円（5.8%）減少し、2,875,794千円となりました。これは、主に未払費用が36,751千円、賞与引当金が205,824千円増加しましたが、未払法人税等が276,953千円、未払金が79,341千円減少したこと等によります。

固定負債は、前連結会計年度末に比べて1,826千円（1.0%）減少し、184,011千円となりました。これは、主に退職給付に係る負債が11,440千円増加しましたが、繰延税金負債が10,835千円、その他の固定負債が2,431千円減少したこと等によります。

この結果、負債合計は、前連結会計年度末に比べて178,380千円（5.5%）減少し、3,059,805千円となりました。

(純資産の部)

純資産合計は、前連結会計年度末に比べて3,355,584千円（37.1%）増加し、12,409,366千円となりました。これは、主に親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等により利益剰余金が1,090,177千円増加し、自己株式を1,242,841千円処分したこと等によります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

当第3四半期連結累計期間においては売上高、利益とも概ね計画どおり推移しております。デバッグ・検証事業については、ソーシャルゲーム向けデバッグが増加傾向にありますが、アミューズメント機器市場や為替相場の動向には引き続き留意する必要があります。ネットサポート事業については、Eコマース向けアウトソーシングサービスの引き合いは増加しておりますが、競合環境の激化に留意する必要があります。現時点においては、第4四半期以降は概ね計画どおり業績推移するものと予測して、平成30年3月12日に公表いたしました連結業績予想から変更はありません。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束するものではありません。また、実際の業績は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,746,832	8,409,446
受取手形及び売掛金	2,814,309	3,394,728
商品及び製品	17,393	17,790
仕掛品	61,837	140,741
繰延税金資産	85,274	95,015
その他	681,179	537,430
貸倒引当金	△8,212	△34,350
流動資産合計	9,398,614	12,560,802
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	866,891	871,716
減価償却累計額	△395,910	△410,702
建物及び構築物（純額）	470,981	461,014
機械装置及び運搬具	19,444	19,444
減価償却累計額	△10,548	△11,851
機械装置及び運搬具（純額）	8,896	7,593
工具、器具及び備品	1,112,401	1,278,451
減価償却累計額	△843,193	△998,612
工具、器具及び備品（純額）	269,207	279,838
有形固定資産合計	749,085	748,446
無形固定資産		
のれん	979,700	905,763
ソフトウェア	50,599	92,746
ソフトウェア仮勘定	—	1,890
無形資産	127,705	88,589
その他	2,244	2,395
無形固定資産合計	1,160,250	1,091,385
投資その他の資産		
投資有価証券	192,454	172,361
敷金及び保証金	559,425	580,652
繰延税金資産	57,727	172,247
その他	232,409	228,604
貸倒引当金	△58,000	△85,327
投資その他の資産合計	984,017	1,068,537
固定資産合計	2,893,353	2,908,369
資産合計	12,291,968	15,469,172

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年1月31日)	当第3四半期連結会計期間 (平成30年10月31日)
負債の部		
流動負債		
未払金	1,484,551	1,405,209
未払費用	174,737	211,489
未払法人税等	583,958	307,004
賞与引当金	53,453	259,278
その他	755,646	692,812
流動負債合計	3,052,347	2,875,794
固定負債		
退職給付に係る負債	59,444	70,885
繰延税金負債	30,105	19,270
その他	96,288	93,856
固定負債合計	185,838	184,011
負債合計	3,238,186	3,059,805
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,237,517	1,237,642
資本剰余金	1,283,971	2,377,651
利益剰余金	7,836,269	8,926,447
自己株式	△1,412,900	△170,059
株主資本合計	8,944,857	12,371,682
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	15,243	13,005
為替換算調整勘定	93,680	24,679
その他の包括利益累計額合計	108,924	37,684
純資産合計	9,053,781	12,409,366
負債純資産合計	12,291,968	15,469,172

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第 3 四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 2 月 1 日 至 平成29年10月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成30年 2 月 1 日 至 平成30年10月31日)
売上高	16,790,625	18,072,461
売上原価	11,151,252	12,293,822
売上総利益	5,639,373	5,778,639
販売費及び一般管理費	3,612,369	3,373,011
営業利益	2,027,004	2,405,627
営業外収益		
受取利息	2,032	1,806
受取配当金	382	389
為替差益	30,162	—
助成金収入	8,147	5,005
保険解約返戻金	12,197	5,979
受取手数料	2,938	—
その他	8,249	9,702
営業外収益合計	64,110	22,882
営業外費用		
支払利息	—	635
為替差損	—	69,921
株式交付費	—	5,560
自己株式取得費用	6,799	—
その他	3,524	7,894
営業外費用合計	10,324	84,011
経常利益	2,080,791	2,344,498
特別利益		
固定資産売却益	80	44
投資有価証券売却益	—	4,499
特別利益合計	80	4,544
特別損失		
固定資産除却損	—	16,219
固定資産売却損	—	51
投資有価証券評価損	33,000	16,999
役員退職慰労金	—	71,887
事業撤退損	—	77,370
特別損失合計	33,000	182,528
税金等調整前四半期純利益	2,047,871	2,166,515
法人税等	864,641	735,825
四半期純利益	1,183,229	1,430,690
非支配株主に帰属する四半期純損失 (△)	△5,830	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,189,060	1,430,690

(四半期連結包括利益計算書)
 (第 3 四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成29年 2 月 1 日 至 平成29年10月31日)	当第 3 四半期連結累計期間 (自 平成30年 2 月 1 日 至 平成30年10月31日)
四半期純利益	1, 183, 229	1, 430, 690
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1, 371	△2, 238
為替換算調整勘定	79, 500	△69, 001
その他の包括利益合計	80, 872	△71, 239
四半期包括利益	1, 264, 101	1, 359, 450
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1, 261, 239	1, 359, 450
非支配株主に係る四半期包括利益	2, 861	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

当社は、平成30年7月5日にみずほ証券株式会社に対して発行した行使価額修正条項付第2回新株予約権の権利行使による自己株式処分等により、当第3四半期連結累計期間において資本剰余金が1,093,680千円増加、また、自己株式が1,242,841千円減少し、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が2,377,651千円、自己株式170,059千円となっております。

(四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用)

(税金費用の計算)

当社及び一部の連結子会社の税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第 3 四半期連結累計期間 (自 平成 29 年 2 月 1 日 至 平成 29 年 10 月 31 日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デバッグ・ 検証事業	ネットサ ポート事 業	医療関連 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	13,722,243	2,700,650	279,511	16,702,405	88,220	16,790,625	—	16,790,625
セグメント間の 内部売上高又は振替 高	11,770	31,069	—	42,839	650	43,489	△43,489	—
計	13,734,013	2,731,719	279,511	16,745,244	88,870	16,834,115	△43,489	16,790,625
セグメント利益 又は損失 (△)	1,989,789	115,635	△121,096	1,984,328	5,074	1,989,402	37,602	2,027,004

(注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に出版・メディア事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失の調整額 37,602 千円には、セグメント間取引消去 416,299 千円、各報告セグメントに配分していない全社費用 △378,697 千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

Ⅱ 当第 3 四半期連結累計期間（自 平成30年 2 月 1 日 至 平成30年10月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント				その他 (注) 1	合計	調整額 (注) 2	四半期連結 損益計算書 計上額 (注) 3
	デバッグ・ 検証事業	ネットサ ポート事 業	医療関連 事業	計				
売上高								
外部顧客への売上高	14,041,896	3,795,018	132,480	17,969,395	103,065	18,072,461	—	18,072,461
セグメント間の 内部売上高又は振替 高	106,495	30,031	—	136,527	360	136,887	△136,887	—
計	14,148,392	3,825,050	132,480	18,105,923	103,425	18,209,349	△136,887	18,072,461
セグメント利益 又は損失 (△)	2,445,367	164,749	△245,214	2,364,903	12,269	2,377,173	28,454	2,405,627

- (注) 1. 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、主に出版・メディア事業等を含んでおります。
2. セグメント利益又は損失の調整額28,454千円には、セグメント間取引消去434,581千円、各報告セグメントに配分していない全社費用△406,126千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。
3. セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

3. 報告セグメントの変更等に関する情報

前連結会計年度より、従来「その他」に含まれていた「医療関連事業」について量的な重要性が増したため、報告セグメントとして記載する方法に変更しております。なお、前第 3 四半期連結累計期間のセグメント情報は、当第 3 四半期連結累計期間の報告セグメントの区分に基づき作成したものを開示しております。